

## 拒絶理由通知書

## Office Action

特許出願の番号 特願 2001-383642

起案日 平成15年 8月 7日

特許庁審査官 井上 典之 9360 4V00

特許出願人代理人 細田 芳徳 様

適用条文 第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

## 記 (引用文献については引用文献一覧を参照)

・請求項 1~10

・引用文献 1~8

・備考

引用文献1には、平均凝集粒径が5.44 μmで、凝集粒径分布の変異係数が30.5%であるゼオライト、アクリル酸-マレイン酸コポリマーからなる水溶性ポリマー、炭酸ナトリウムと硫酸ナトリウムと亜硫酸ナトリウムとからなる水溶性塩類とを含有してなるスラリーを噴霧乾燥して得られ、前記ゼオライトを5.2重量%、前記水溶性ポリマーを6重量%、前記水溶性塩類を37.5重量%含有し、10分後のカチオン交換能が208 mg/CaCO<sub>3</sub>である界面活性剤担持用ベース顆粒群とその製造方法、該ベース顆粒群を含有する洗剤が記載されている（段落番号[0027]に記載の製造例1と段落番号[0028]を参照、なお、該製造例1で使用のゼオライトは、東ソー社製の「4A型ゼオライト」であり、本願明細書の段落番号[0089]の表1の比較例3に示されている特質を備えているものと認められる）。

上記引用文献1に記載の界面活性剤担持用ベース顆粒群及びその製造方法、該ベース顆粒群を含有する洗剤粒子群は、用いられるゼオライトの凝集粒径分布の

変異係数が29%以下ではない点で、本願請求項1～10に係る発明と相違している。

しかしながら、粒径の小さい粉末又は顆粒の性質として、粒径分布が狭いほど好ましく、さらには粒径分布の変異係数が小さいほど望ましいことは周知であるから（引用文献1の段落番号[0018]、引用文献2の第9頁下欄の分級テストの項の説明と表4、引用文献3の請求項1、引用文献4の第3頁右上欄第9～14行、引用文献5の第3頁右上欄第6～11行、及び引用文献6の第3頁左上欄第3行～同頁右上欄第13行等を特に参照）、より優れた性質を期待して、粉碎や分級、攪拌合成等の周知の手段によって、凝集粒径分布の変異係数がより小さなゼオライトを製造し、これを界面活性剤担持用ベース顆粒群の製造に用いることは、当業者であれば容易に想到し得ることであり、その効果も予測し得る程度のものである（なお、本願明細書の段落番号[0089]の表1の実施例1と比較例3に示されている交換能及び吸油能の違いは、平均一次粒子径の違いによるものと認められる。）。

また、ゼオライト、水溶性ポリマー、水溶性塩類とを含有してなるスラリーを噴霧乾燥して界面活性剤担持用ベース顆粒群を製造する際に、界面活性剤を5重量%以下の低含有量とすることも本願出願前に既に知られている（引用文献7～8を参照）。

この拒絶理由通知書中で指摘した事項以外には、現時点では拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

### 引 用 文 献 一 覧

1. 特開2000-345199号公報
2. 特開昭58-002399号公報
3. 特開昭56-059618号公報
4. 特開昭61-270211号公報
5. 特開昭54-147200号公報
6. 特開昭53-102898号公報
7. 特開昭61-138697号公報
8. 特表平03-504734号公報

---

### 先行技術文献調査結果の記録

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

(この拒絶理由通知に対して明細書を補正する際には、新規事項を加入する補正とならないよう十分に注意し、意見書においても、全ての補正事項について、その補正を行う理由、及び出願当初の明細書における補正の根拠を詳細に説明されたい。)

(この拒絶理由通知に関して、問い合わせが必要な場合の連絡先：

特許審査第3部 応用有機材料 審査官 井上 典之

[TEL : 03-3581-1101 (内線3402) , FAX : 03-3501-0699] )